Dielectric function: epsPP0

epsPP0(2025-5-8 version)

During QSGW, we calculate $\gamma_{IJ}(q, \omega)$ for \$W\$ in the GW calculation.

However, we need to calculate \$\epsilon(q, \omega)\$ with larger number of k points to compare experiments.

Based on the no local-field correction equation $\ensuremath{\color=0$}\$ \chi_0({\bf q},\omega)=1-v({\bf q}) \chi_0({\bf q}) q},\omega})\$, we can calculate interband and intraband contributions separately. The intraband contribution is the Drude weight at the limit $\{ b \in \mathbb{Z} \}$

We use the command epsPP0 now.

We include spherical Bessel functions in the MPB to expand $\exp(i \cdot \text{bf q r})$.

We can include local-field corrections with eps_lmfh (in fact, we do include the local-field correction is QSGW iteration), but computationally expensive and not open to users currently.

Computational steps

Examples of epsPP0

It is instructive to learn things from samples as

- ecalj/Samples/EPS/GaAsEps
- ecalj/Samples/EPS/CuEpsPP0

Follow job files in these directories(bash job should work). We explain the steps in job in the following steps.

You can start from only ctrl, GWinput. Then

```
gnuplot -p epsinter.glt
gnuplot -p epsintra.glt
gnuplot -p epsall.glt
```

Note that we usually need many k points if you like to have 0.1 level of error for dielectric constants (at the limit of $\{\bf q}=\omega=0\$) (e.g, reasonable results for GaAs may require n1n2n3 20 20 20 in GWinput.)

 NOTE: to calculate \$\epsilon({\bf q},\omega)\$ without LFC accurately, the best basis set for the expansion of the Coulomb matrix within MT is apparently not the product basis, but the Bessel functions corresponding to the plane waves $\exp(i\{bf q r\})$. We include such a basis in this mode. (However, our experience shows that the changes are little even with the usual product basis).

step1: lmf収束計算行う。

sigmファイルがある場合は, QSGW計算による固有値固有関数からの誘電関数を計算することができる。

step2: **GWinput**のパラメータを設定

• GWinput内でOforEPSで囲まれた箇所を探してください。 // defaultではこのように書かれている

QforEPSau on <QforEPS> 0 0 0.00050 0 0 0.00100 0 0 0.00200 </QforEPS>

- 。 この部分は誘電関数を計算するときの**q**ベクトルを設定しています。 この値を変えることで誘電関数のq方向の依存性を調べることができます。
- 。 QforEPSau onがあるので、単位はa.u.になっています。すなわち、000.001であれば \${\bf q}\$ = (0,0,0.001) bohr^{-1}です
- 。 もしQforEPSau onがない場合、**q**の単位は \$\frac{2 \pi }{a}\$ です。\$a\$は=alatでctrlで定義 したものです。あるいはSiteInfo.chkに表示されています。

光学応答の場合はq=0としたいですが、そうすると今のコードでは数値的に不安定です。 なので適宜小さくとってください。この不安定性は以下の図、ecalj/Samples/EPS/GaAsEpsで gnuplot -p epsinter.gltで100eVs弱のところに現れています。なのでたとえばGaAsEpsだと 0,0,0.00050(EPS0001に対応) だとすこしにおおきくなっておりよろしくない、ということになり ます。gnuplotファイルepsinter.gltを見てください。

• エネルギーメッシュの取り方 誘電関数を計算する際のメッシュは対数メッシュでとられており、GWinput内で

HistBin_dw 2d-3

HistBin ratio 1.08

の値を変えることで、誘電関数のエネルギーメッシュを増やす(減らす)ことができます。メッシュを細か くとれば、誘電関数の構造がより現れるようになります。ただし、細かすぎると計算コストがすこし増え ます。計算法はまずは虚部のウエイトをヒストグラム的に蓄積したあと、実部はヒルベルト変換の方法で 求めています。なので数値的にはまあまあ安定です。

• 計算メモリ量をへらしたい場合はGWinputに

KeepEigen False KeepPbp False

等のコマンドを適宜書き込んで下さい。(we have to explain details...)

- QforEPSau on
 これはQforEPSのqをa.u.ではかるという意味になります。
 たとえば<QforEPS>に0d0 0d0 0.00005とあれば、これは
 q=(0d0 0d0 0.00005)/bohrと読んでください。
 (過去のQforEPSunita on と同じ意味)。
 確認するには,2pi/alatをEPSファイル最初の3つの数字に乗じて
 <QforEPS>にかかれているqになるのをみます。
- 以前の--zmel0のオプションは2025-5-8で廃止しました。 これはGramSchmidt2をsugw.f90に挿入して すこし正確な直行化が可能になったためです。
- epsPPOでは最後にreadeps.pyを読んでて答えをまとめ上げてます。
- Cuの場合だと、qがあまりにゼロに近いと計算が不安定です。たとえば

```
QforEPS>
0d0 0d0 0.00005
0d0 0d0 0.00001
0d0 0d0 0.0002
0d0 0d0 0.0004
0d0 0d0 0.0008
0d0 0d0 0.0016
0d0 0d0 0.0032
</QforEPS>
```

などとすると、 0d0 0d0 0.00005のグラフがおかしいです。 それ以外のグラフはほぼ重なります。だた、0.0032ぐらいになるとomega=0での実部がいくらかずれて きます。

• CuepsPPOではフェルミ面の寄与もあり、

```
gnuplot -p epsintra.glt
```

を実行してフェルミ面の寄与が見れます。This is Drude weight、q分解でみれています。omega=0近傍でのふるまいはFetter-Waleckaにあるようにふるまっています。

```
gnuplot -p epsintra.glt
gnuplot -p epsall.glt
```

• epsPP0の計算が終わるとEPS000*.nlfc.datというファイルがGWinputで設定したq点の数分作られます。この中は

```
// example EPS0001.nlfc.dat
   q(1:3)
           w(Ry)
                   eps
                          epsi
                               --- NO LFC
 0.0000E+00
0.276888086703565E+02 0.211273167660642E-17
                                             0.361156744555281E-01
-0.275572453667495E-20
 0.01000000 0.00000000 0.00000000
                                     0.1015E-04
0.276873286605807E+02 0.424191214559347E-01
                                            0.361175202203266E-01
-0.553348246663633E-04
 0.01000000 0.00000000 0.00000000
                                     0.3076E-04
0.276716446748960E+02 0.128515093142673E+00
                                            0.361372966009293E-01
-0.167832020581202E-03
 0.01000000 0.00000000 0.00000000
                                     0.5200E-04
0.276450859807482E+02 0.197440420455938E+00
                                            0.361709489903162E-01
-0.258331892398948E-03
 0.01000000 0.00000000 0.00000000
                                     0.7389E-04
0.276274571460234E+02 0.249411594405801E+00
                                            0.361929258459201E-01
-0.326737828014011E-03
```

1~3行目にq点座標、4行目にエネルギー(Ry単位)、5・6行目が誘電関数の実部・虚部、7・8行目が誘電関数の逆数の実部・虚部 数の逆数の実部・虚部 が書かれています。

** (改良計画)誘電関数計算にはバンド吸収端で(E-E0)**.5でキレイに立ち上がらない(GaAsなどの場合)、という数値計算上の問題があります。メッシュを細かく取るときれいにできることは示したことがあります。変な内挿法よりも必要なことだけ細かく取るという技法が有効だと思います。汎用化しないといけないです。

Test at 2016: we need to have correct edge \$\propto \sqrt{\omega-E_0}\$. To do so, we need to move to new method as

Enew eps

**(改良計画)q=0でのinterbandの寄与は<u|u>行列を使えば先に $1/q^2$ の割り算ができるのでもっと直接的にできるはずです。

** (修正するべき) 局所場補正

Local field correction with eps_lmfh

To include eps with LFC, do eps_lmfh. Expensive.

lcutmx=2 seems to be good enough to get 0.5 percent error (maybe better than this).

Further we can use smaller QpGcut_cou like 2.2 or so, with rather smaller product basis (up to p timed d, not including f).

But we need checks and may be modification of eps_lmfh.

** スピンゆらぎを計算するにはモデルを経由するべき

** 要チェック(古いノート): We can use small enough delta. Use small enough delta (=-1e-8 a.u.) for spin wave modes (also you can use it for dielectric function and GW). This can be meaningful because pole is too smeared if you use larger delta.

old convergence test (2010)

• Convergence test for number of k point(specified by n1n2n3) test at 2010. Roughly speaking, 20x20x20 is required for not-so-bad results for Fe and Ni. It is better to do 30x30x30 to see convergence check.

However, in the case of ZB-MnAs (maybe because of simple structure around Ef), it requires less q points.

Old figuresof epsilon for GaAs (2010).

fig001: n1n2n3 convergence for Chi_RegQbz = on case. (mesh including Gamma)

Fig001

fig002: n1n2n3 convergence for Chi_RegQbz = off case. (mesh not including Gamma)

Fig002

fig003: Alouanis'(from Arnaud) vs. Chi_RegQbz = on'' vs. Chi_RegQbz = off'' As you see, the threshold of the Red line (20x20x20 Chi_RegQbz=on) and Alouani's are almost the same, but the red line is too oscilating at the low energy part.

On the other hand, ``Chi_RegQbz = off'' in Green broken line is not so satisfactory at the low energy part.

Fig003

 Old unpublished result for spin wave of ZB MnAs in QSGW as zbmnas

<!--

• OLD document before 2025-5-7

誘電関数 q=0 を計算するには、最近のバージョンの(2023-10-23以後)の 収束したところからスクリプトepsPP0を使ってください。

ecalj/MATERIALS/Cueps

にサンプルがあるので、Cuを収束させた後、

epsPP0 cu -np 4

などとすると、epsinter.glt, epsintra.glt, epsall.glt ができます。epsintraはフェルミ面の寄与になります。

いくつかのq点で計算してq => 0を取るのです。そのためにctrlには

QforEPSunita on

0d0 0d0 0.00001

0d0 0d0 0.001

0d0 0d0 0.0014142

0d0 0d0 0.002

0d0 0d0 0.0028284

0d0 0d0 0.004

最低でも、2行入ります。 QforEPSunita on 0d0 0d0 0.00001	などと書いておく必要があります。	
0d0 0d0 0.00001 0d0 0d0 0.0001 が、いります.できれば後何行かあったほうがいいです。 QforEPSunita onは単位を2pi/alat とする指定です。 最初の行の0d0 0d0 0.00001 は数値誤差を計算するためにいるんです。 0d0 0d0 0.001での誘電関数計算にも 0d0 0d0 0.00001で計算した行列要素(誤差の大きさを計算)を うんです。なので、EPS0002以後が意味のある答えになります。 epsinter.gltなどではqを複数計算して重ねてみています。 Cuだとキレイにかさなっているのが見て取れます。 epsPP0では最後にreadeps.pyを読んでて答えをまとめ上げてます。 (readeps.py汚いです。試行錯誤の結果が残っていて関数fd0はいまは使っていません)。 いぜんよりはだいぶとキレイに求まると思います。 Ag、結果がこれでも変なら教えてください。		
つの位の 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	QforEPSunita on	
ーーーーーーーーーーーーが、いります.できれば後何行かあったほうがいいです。 QforEPSunita onは単位を2pi/alat とする指定です。 最初の行の0d0 0d0 0.00001 は数値誤差を計算するためにいるんです。 0d0 0d0 0.001での誘電関数計算にも 0d0 0d0 0.00001で計算した行列要素(誤差の大きさを計算)を うんです。 なので、EPS0002以後が意味のある答えになります。 epsinter.gltなどではqを複数計算して重ねてみています。 Cuだとキレイにかさなっているのが見て取れます。 epsPPOでは最後にreadeps.pyを読んでて答えをまとめ上げてます。 (readeps.py汚いです。試行錯誤の結果が残っていて関数fd0はいまは使っていません)。 いぜんよりはだいぶとキレイに求まると思います。 Ag、結果がこれでも変なら教えてください。		
QforEPSunita onは単位を2pi/alat とする指定です。 最初の行の0d0 0d0 0.00001 は数値誤差を計算するためにいるんです。 0d0 0d0 0.001での誘電関数計算にも 0d0 0d0 0.00001で計算した行列要素(誤差の大きさを計算)を うんです。なので、EPS0002以後が意味のある答えになります。 epsinter.gltなどではqを複数計算して重ねてみています。 Cuだとキレイにかさなっているのが見て取れます。 epsPPOでは最後にreadeps.pyを読んでて答えをまとめ上げてます。 (readeps.py汚いです。試行錯誤の結果が残っていて関数fd0はいまは使っていません)。 いぜんよりはだいぶとキレイに求まると思います。 Ag、結果がこれでも変なら教えてください。	0d0 0d0 0.001	
最初の行の0d0 0d0 0.00001 は数値誤差を計算するためにいるんです。 0d0 0d0 0.001での誘電関数計算にも 0d0 0d0 0.00001で計算した行列要素(誤差の大きさを計算)を うんです。なので、EPS0002以後が意味のある答えになります。 epsinter.gltなどではqを複数計算して重ねてみています。 Cuだとキレイにかさなっているのが見て取れます。 epsPP0では最後にreadeps.pyを読んでて答えをまとめ上げてます。 (readeps.py汚いです。試行錯誤の結果が残っていて関数fd0はいまは使っていません)。 いぜんよりはだいぶとキレイに求まると思います。 Ag、結果がこれでも変なら教えてください。 ====================================	ーーーーーーーーーーー が、いります.できれば後何行かあったほうがいいです。	
0d0 0d0 0.001での誘電関数計算にも 0d0 0d0 0.00001で計算した行列要素(誤差の大きさを計算)を うんです。なので、EPS0002以後が意味のある答えになります。 epsinter.gltなどではqを複数計算して重ねてみています。 Cuだとキレイにかさなっているのが見て取れます。 epsPPOでは最後にreadeps.pyを読んでて答えをまとめ上げてます。 (readeps.py汚いです。試行錯誤の結果が残っていて関数fd0はいまは使っていません)。 いぜんよりはだいぶとキレイに求まると思います。 Ag、結果がこれでも変なら教えてください。	QforEPSunita onは単位を2pi/alat とする指定です。	
うんです。なので、EPS0002以後が意味のある答えになります。 epsinter.gltなどではqを複数計算して重ねてみています。 Cuだとキレイにかさなっているのが見て取れます。 epsPP0では最後にreadeps.pyを読んでて答えをまとめ上げてます。 (readeps.py汚いです。試行錯誤の結果が残っていて関数fd0はいまは使っていません)。 いぜんよりはだいぶとキレイに求まると思います。 Ag、結果がこれでも変なら教えてください。 ====================================	最初の行の0d0 0d0 0.00001 は数値誤差を計算するためにいるんです。	
epsinter.gltなどではqを複数計算して重ねてみています。 Cuだとキレイにかさなっているのが見て取れます。 epsPPOでは最後にreadeps.pyを読んでて答えをまとめ上げてます。 (readeps.py汚いです。試行錯誤の結果が残っていて関数fd0はいまは使っていません)。 いぜんよりはだいぶとキレイに求まると思います。 Ag、結果がこれでも変なら教えてください。 ====================================	0d0 0d0 0.001での誘電関数計算にも 0d0 0d0 0.00001で計算した行列要素(誤差の大きさを計算)を修
Cuだとキレイにかさなっているのが見て取れます。 epsPP0では最後にreadeps.pyを読んでて答えをまとめ上げてます。 (readeps.py汚いです。試行錯誤の結果が残っていて関数fd0はいまは使っていません)。 いぜんよりはだいぶとキレイに求まると思います。 Ag、結果がこれでも変なら教えてください。		
epsPP0では最後にreadeps.pyを読んでて答えをまとめ上げてます。 (readeps.py汚いです。試行錯誤の結果が残っていて関数fd0はいまは使っていません)。 いぜんよりはだいぶとキレイに求まると思います。 Ag、結果がこれでも変なら教えてください。 ====================================		
(readeps.py汚いです。試行錯誤の結果が残っていて関数fd0はいまは使っていません)。 いぜんよりはだいぶとキレイに求まると思います。 Ag、結果がこれでも変なら教えてください。 ====================================		
いぜんよりはだいぶとキレイに求まると思います。 Ag、結果がこれでも変なら教えてください。 ====================================		
	Ag、結果がこれでも変なら教えてください。	
	>	